

FlexiForce™



amp box

アンプボックス

アンプボックスシリーズ取扱説明書



製品を安全に、安心してご使用いただくために

※ご使用の前に、よくお読みいただき、必ずお守りください。

- このユーザーズマニュアルおよび商品には、安全にご使用いただくために、以下の表示をしています。









表示の内容をよく理解してから、本文をお読みいただき、ご使用ください。












- ここに示した注意事項は、以下の2種類に分類しています。

	警告	誤った取り扱いにより、死亡や重症などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
	注意	誤った取り扱いにより、障害を負う可能性、または物的損害の可能性のあるもの。 状況によっては重大な結果に結びつく可能性があるもの。

- また、本文中に使われる「図表示」は次の通りです。

	絶対にしないでください。		必ず指示どおりに行ってください。
---	--------------	---	------------------

	警告		● 本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。 火災・感電・故障の原因となります。
			● AC100V (50/60Hz) 以外のコンセントには、絶対に電源プラグを差し込まないでください。 異なる電圧で使用すると、ショートしたり、発煙・火災の恐れがあります。
			● 電源プラグはコンセントに完全に差し込んでください。 差し込みが不完全なまま使用すると、ショートや発熱の原因となり、火災や感電の恐れがあります。
			● 電源ケーブルを傷つけたり、加工、加熱、修復しないでください。 ショートや発熱の原因となり、火災や感電の恐れがあります。
			● 濡れた手で本製品に触れないでください。 感電・故障の原因となります。
			● 水分や湿気が多い場所では本製品を使用しないでください。 火災・感電・故障の原因となります。
			● 雷が近くで発生したら、本製品には触れないでください。 感電の原因となります。
			● 故障や異常のまま、使用しないでください。 火災・感電・故障の原因となります。
	注意		● 本製品をご使用中に、煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。 そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
			● 本製品に静電気を与えないでください。 故障の原因となります。本製品に触れる前に、静電気を除去してください。 本製品が静電気を発生させる可能性のある機器に接触する場合は、接地処理を行ってください。
			● 本製品を以下のような場所で使用・保管しないでください。 故障の原因となることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 静電気の影響の強い場所 ・ 振動や衝撃が加わる場所 ・ 直射日光が当たる場所 ・ 湿気やほこりが多い場所 ・ 温度差の激しい場所 ・ 熱を発生するものの近く ・ 強い磁力電波が発生するものの近く

	● 本製品を落としたり、衝撃を加えないでください。 本製品は精密機器のため、故障の原因となります。
	● 本製品の上に物を載せないでください。 本製品は精密機器のため、故障の原因となります。
	● コード・ケーブルに物を載せたり、引っ張ったり、折り曲げたりしないでください。 断線・火災の原因となります。
	● プラグ・コネクタを抜くときはコード・ケーブルを引っ張らないでください。 コード・ケーブルが断線し、火災・感電の原因となります。プラグ・コネクタを抜くときは、プラグ・コネクタ部分を持って抜いてください。
	● ケーブルとコネクタ等の接続箇所には無理な力をかけないでください。 故障の原因となります。
	● 各接続コネクタ、コンセントまわりのちりやほこり等は、取り除いてください。 故障の原因となります。
	● 各接続コネクタには手を触れないでください。 故障の原因となります。
	● 熱器具のそばに配線しないでください。 コード・ケーブルの被覆が敗れ、火災・感電・やけどの原因となります。
	● テーブルタップを使用する場合は定格容量以内で使用し、タコ足配線はしないでください。 テーブルタップの定格容量を超えて使用すると、テーブルタップが過熱し、火災の原因となります。
	● シンナーやベンジン等の有機溶剤で、本製品を拭かないでください。 本製品の汚れは乾いた布で拭き取ってください。汚れがひどい場合は、布に中性洗剤を含ませ、かたくしぼってから拭き取ってください。
	● 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従ってください。 条例の内容については、各地方自治体にお問い合わせください。

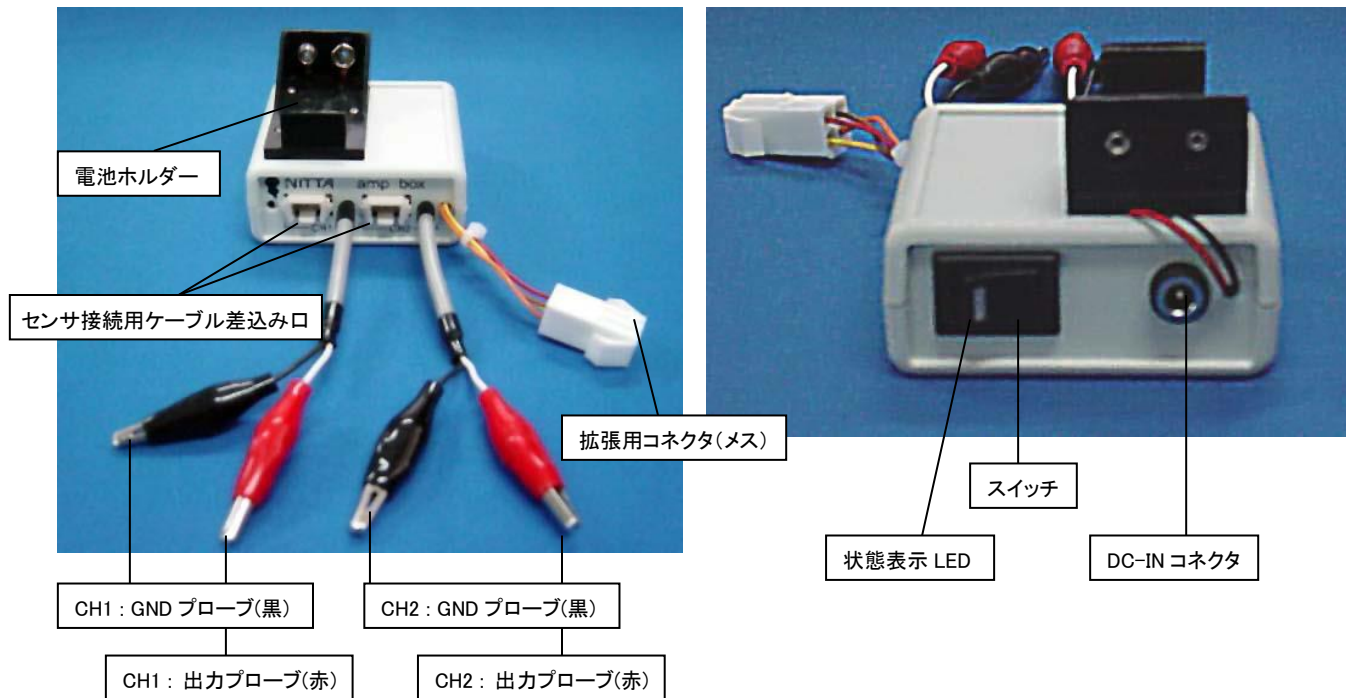
- 本製品は、日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、およびアフターサービスを行っておりませんので、あらかじめご了承ください。

各部名称

マザーボックス

前面

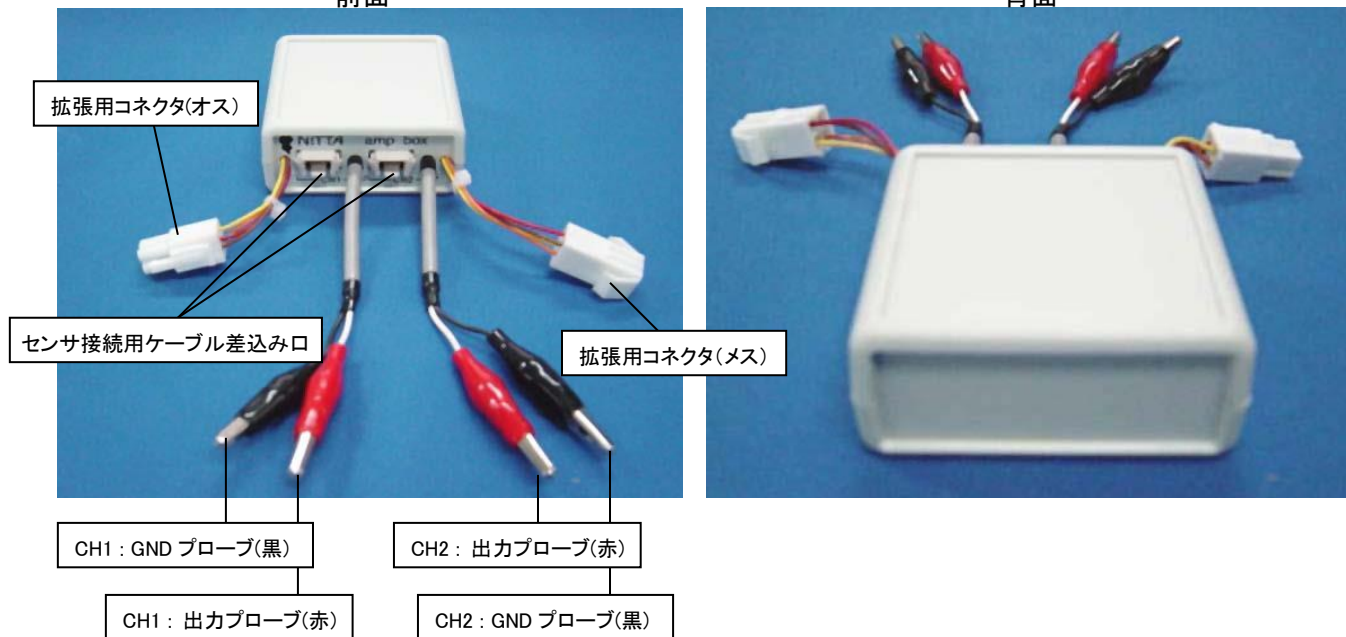
背面



拡張ボックス

前面

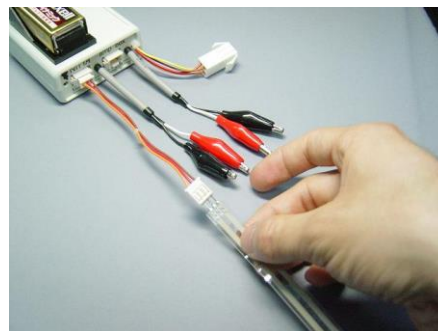
背面



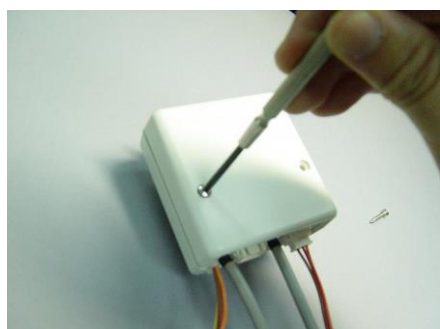
使用方法

マザーボックスについて

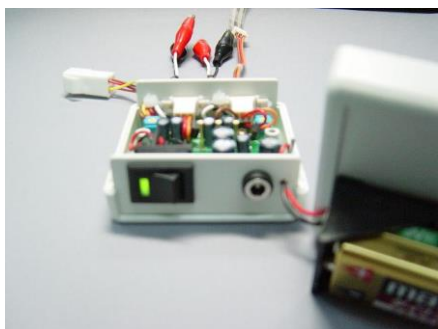
1. 9V 乾電池 (006P) を電池ホルダーに差し込むか、AC アダプター (別売) を DC-IN コネクタに差し込んでください。
2. センサ接続用ケーブルの片端をボックスの差込み口に、カチッと音がするまでしっかり差し込み、もう一方の片端にセンサを差込んでください (センサの裏表は特に関係ありません)。



3. ボックスの裏側のビスを外し、ボックスのフタを開けてください。

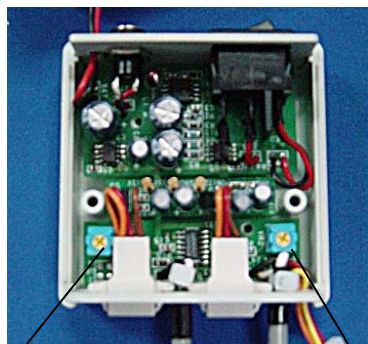


4. スイッチを ON にします。電源が入ると状態表示 LED が点灯します。
(電池の残量が少なくなると LED は点滅します。こうなると正常な出力が出ない場合がございますので、速やかに新しい電池に交換するか、AC アダプターを使用するようにして下さい。)



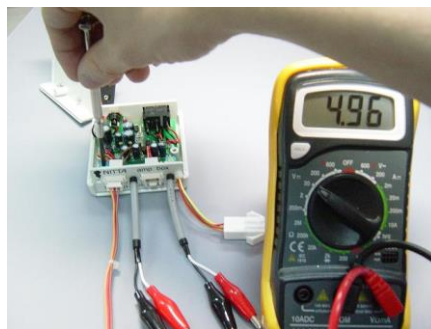
CH1 と CH2 の出力プローブが接触した状態で電源を入れますと故障の原因となります。CH1 と CH2 の出力プローブが接触していないことを必ずご確認の上、電源を入れるようにして下さい。

5. センサ使用時に加えられると予想される荷重を、重りや試験装置(材料試験機など)を使ってセンサに加えます。その時、プローブに電圧計等を繋ぎ、希望の出力値になるように感度調節用ボリュームをドライバ等で回して調節します。(時計回りに回すと出力値は増大します)



CH1：感度調節用ボリューム

CH2：感度調節用ボリューム

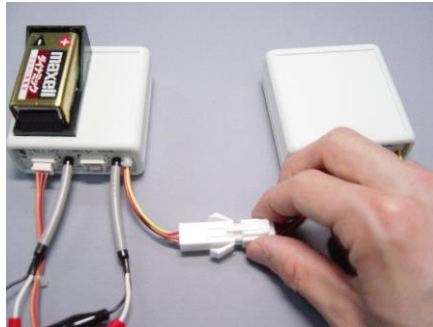


6. 元通りにフタを閉め、ビスを締めます。

拡張ボックスを使用してチャンネル数を増やす

2 チャンネル以上使用して測定を行いたい場合は、拡張ボックスを利用します。

1. 拡張ボックスの拡張用コネクタ(オス)と、マザーボックスの拡張用コネクタ(メス)を接続します。



2. マザーボックスの場合と同様にして、センサを接続し、ボックスのフタを開けます。
3. マザーボックスの電源を入れ、拡張ボックスの感度をマザーボックスの場合と同様にして調節します。その後、フタをしてビスを閉めてください。
4. さらにチャンネル数を増やしたい場合は、マザーボックスに接続した拡張ボックスの拡張用コネクタ(メス)に、新たな拡張ボックスの拡張用コネクタ(オス)を接続して・・・といった具合にチャンネル数を拡張していくことができます。



東京 TEL : 03-6744-2720 FAX : 03-6744-2721
<http://www.nitta.co.jp/>